

(様式 1)

令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立小梅小学校
校長名	荒井 令子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">どの学年も国語・算数・社会の成績が良い。この3教科については、ほぼ全ての観点において全国平均を5ポイント以上上回る結果となった。「校長講話作文」、「朝学習」、「放課後学習」等の学力向上の取組が成果に結び付いていると考える。第6学年は、昨年度(第5学年時)理科の関心・意欲・態度のポイントが低く、知識・技能は全国平均を下回っていた。今年度は、知識・技能が全国平均を上回り、主体的に学習に取り組む態度のポイントは大きく向上していた。目標であった「理科の学力向上」への取組の成果と考えられる。	<ul style="list-style-type: none">昨年度、「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標の一つに「理科の学力を向上させる。」と挙げていたが、第5学年の理科を観点別で見ると「知識・技能」が全国平均を大きく下回っていた。この傾向は墨田区の第5学年全体に見られるものではあるが、この学年の昨年度の知識・技能は高成績であったため、検討を要する。他学年に比べ、第5、6学年の社会科「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が低い。資料から読み取ったことから判断する力に課題が見られる。他学年に比べ、3年生の国語「知識・技能」「主体的に取り組む態度」の正答率が低かった。「知識・技能」のポイントは昨年度も低かったため、今後の努力を要する観点である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">「家族のささえ」は、どの学年も全国を上回っており、家庭状況が良いことが読み取れる。「生活習慣」は、おおむね全国と同程度がそれ以上の結果となった。家庭や学校での生活習慣がしっかり身に付いていることが読み取れる。	<ul style="list-style-type: none">低中学年において、「ソーシャルスキル」、「学級風土」の項目が低い傾向が見られた。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">タブレットを活用して意欲的に学習をしたり、個に応じた学習をしたりすることができるようになった。言われたことなど指示に従順に従う素直さがある。落ち着いて学習に取り組める児童が多い。	<ul style="list-style-type: none">児童の思考力・判断力・表現力をさらに高めていくために、タブレットをどう活用していけばよいか今後の課題である。自信がなく、自分の考えを発表することに抵抗感がある。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 校内研究での取組

- ・昨年度より理科・生活科で校内研究を進めている。今年度は、目指す児童像を「考える楽しさを感じながら、身に付けた知識や技能を活用し、自ら学びを進めることができる子」とした。意見や考えを交流する場を設定し、多様な考えに気付かせたり、よりよい考え方を見付けさせたりするために、児童がどのような視点で捉え、どのような考え方で思考していくのかを明確にした学習計画を立てたりすることで、思考力・判断力・表現力を育成していく。今年度の校内研究が、今後の理科の学力向上につながるようにしていく。
- ・これまでであった算数ノートの書き方に加え、理科ノートの書き方についても学校全体で共有し、思考過程がはっきり分かるノート作りを行う。

(2) 朝学習や家庭学習での取組

- ・昨年度に引き続き、月曜日の「校長講話作文」、金曜日の「朝読書」、月1回の「俳句作り」を通して、言葉に対する豊かな感性を養うとともに、書くことの習慣化を図る。
- ・火曜日、水曜日の「学力向上タイム」では、学年の実態に応じて国語・算数・理科・社会の習熟を図る。その際には、ドリルやプリントの他、「ふりかえりシート」、デジタルドリル「ミライシード」を有効に活用する。
- ・家庭学習において、第4学年以上は自主学習に取り組む。曜日ごとにおおよその教科を指定し自分の学習状況に合わせた課題に取り組むようにする。模範となる自主学習ノートを学級全体で適宜共有したり、手本となる過去の自主学習ノートは可能な範囲で学校保管したりして、教員や児童が共有できるようにする。

(3) 「ふりかえり月間」での取組

- ・学力定着に向けて、4～6月、10月、1～3月を「ふりかえり月間」とし、全校で習熟を図る。その際には、ドリルやプリント、「ふりかえりシート」、「ミライシード」に積極的に取り組む。
- ・6月と3月には、過去の墨田区学習状況調査問題に取り組み、学習の振り返りを行う。

3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・昨年度に引き続き理科の学力を向上させていきたい。校内研究で教職員の指導力を向上させ、児童の知識・技能の定着を目指す。令和4年度の墨田区学力状況調査では、第4、5、6学年の理科の平均正答率が全国平均正答率よりも5%以上上回るようにする。
- ・自分の考えを発表する方法を工夫する。全体の前で発言するばかりでなく、ロイロノート等、学習支援クラウドに考えをまとめさせ、教員に提出したものを全体で共有するなど、新しい発表のスタイルを確立する。